

※今月のみ受注の書目です。

政治

〈シリーズ 怪獣化するプラットフォーム 権力と法〉のご案内

社会の超高齢化に伴い生じる様々な問題の解決に向けて、プラットフォームの機能に着目し、ネットワーク空間における新たな秩序の形成を目指す研究プロジェクトをもとにした全4巻のシリーズです。プラットフォームがもたらしうる積極的側面を最大化し消極的側面を最小化するために何が必要なのか。海外の研究者やプラットフォーム実務家等と協力しつつ、その機能と課題を検証しています。現在直面している将来的課題の解決策を模索しながら、読みやすい内容で一般の読者の方に訴求することを目指しています。

編著者陣には、『AIと憲法』などの著作で知られる山本龍彦教授のほか、石塚壮太郎准教授、駒村圭吾教授、磯部哲教授など、法学研究をリードする研究者が揃っています。

本シリーズは全4巻構成となっております。

I巻：山本龍彦編『プラットフォームと主権（仮）』（2024年9月刊行予定）

II巻：石塚壮太郎編『プラットフォームと権力（仮）』（2024年8月刊行予定）

III巻：駒村圭吾編『プラットフォームとデモクラシー（仮）』

（2024年9月刊行予定）

IV巻：磯部哲ほか編『プラットフォームと社会基盤（仮）』（2024年8月刊行予定）

👉 中面に、II巻とIV巻の紹介を掲載しておりますので、
ぜひご確認ください！

怪獣化するプラットフォーム権力と法II プラットフォームと権力 (仮)

How to tame the Behemoths (2024年8月下旬刊行予定)

石塚壮太郎 (日本大学法学部准教授) [編]

四六判上製 / 320頁 税込予価 2,970円 ISBN978-4-7664-2979-4 C0031

🔍 ココに注目!

- ・デジタルプラットフォーム vs. 国家。巨獣の争いはどちらに軍配が上がるのか?
- ・ネットワーク空間における新たな秩序の形成を目指す研究プロジェクトの集大成。
- ・第2巻ではデジタル空間の立憲化に向けて、現在の憲法の限界と憲法の展望を仮説的に描く。

国家に比肩しうる影響力をもちはじめたデジタルプラットフォーム。その積極的側面を最大化し、消極的側面を最小化するためにはどのような秩序形成が必要なのか。自由と権力の観点から、デジタル空間の立憲化に向けて、現在の憲法の限界と憲法の展望を仮説的に描く第2巻。

対象 デジタルプラットフォームやAIの抱える問題点を法や国家の観点から考えたい一般読者

類書 ポール・シャール 著『AI 覇権 4つの戦場』(早川書房)

【主要目次】

提言 石塚壮太郎

第1章 立憲主義 vs. ビヒモス

- I デジタル立憲主義—怪獣たちを飼い慣らす (山本健人)
- II 憲法の名宛人—ビヒモスの拘束具? (石塚壮太郎)
- III 社会的立憲主義から見た DPF と国家—システムの中の怪獣たち (見崎史拓)

第2章 ビヒモスの再魔術化

- I デジタル言論空間における憲法的ガバナンス—ビヒモスを統治する (水谷瑛嗣郎)
 - II Facebook ニュースフィードと放送の自由—ビヒモスへのデバフ (アナ=ベッティナ・カイザー/イネス・ライリング、玉蟲由樹/藤田蘭丸訳)
- コラム: データポータビリティ—ビヒモスからの解放? (飯田匡一)

第3章 憲法=競争法 vs. ビヒモス

- I 優越的地位の濫用法理と憲法上の自己決定権—ビヒモスの二重の檻 (新井貴大)
 - II 企業結合規制における「総合的事業能力」の活用—ビヒモスの生態把握 (田平恵)
 - III DMA による「事前規制」の導入—門番としてのビヒモス (成富守登)
- コラム: 協調型法執行による対応とその弊害—ビヒモスに寄り添う (成富守登)

第4章 ビヒモスの脱魔術化

- I フランスのデジタル共和国法による透明性要請—先導者としてのビヒモス (石尾智久)
 - II DSA 草案による「実体規制から手続規制へ」の採用—ビヒモスの作法 (ヨハネス・ブフハイム、村山美樹訳)
 - III DSA 等による公益と私益の保護—ビヒモスはなぜ透明でなければならないか (クリストフ・クレンケ、太田航平訳)
- コラム: DSA のポテンシャル—EU = リヴァイアサズ〉の挑戦 (栗島智明)

怪獣化するプラットフォーム権力と法Ⅳ プラットフォームと社会基盤 (仮)

How to engage the Monsters (2024年8月下旬刊行予定)

磯部哲 (慶應義塾大学大学院法務研究科教授) [編]

四六判上製 / 304頁 税込予価 2,970円 ISBN978-4-7664-2981-7 C0031

ココに注目!

- ・デジタルプラットフォーム vs. 国家。巨獣の争いはどちらに軍配が上がるのか?
- ・ネットワーク空間における新たな秩序の形成を目指す研究プロジェクトの集大成。
- ・第4巻ではDPFが健康(医療・公衆衛生)、教育、労働に参入したことによる影響と課題を扱う。

国家に比肩する影響力をもちはじめたデジタルプラットフォーム。その積極的側面を最大化し、消極的側面を最小化するためにはどのような秩序形成が必要なのか。eヘルス、EdTech、ギグワークなどにみられる新しい社会システムのなかでは、健康に関する諸権利、教育を受ける権利、労働基本権の「揺らぎ」がみられる。デジタルプラットフォームの参入と健康・教育・労働の視点を交錯させウェルビーイングの課題を提言する第4巻。

対象 デジタルプラットフォームやAIの抱える問題点を法や国家の観点から考えたい一般読者

類書 ポール・シャール 著『AI覇権 4つの戦場』(早川書房)

【主要目次】

提言 磯部哲ほか

第1章 社会、システムとDPF

- I データをめぐる科学・技術と社会—STSの観点から(鈴木舞)
- II おせっかいDPFがコントロールする健康とは—システムデザインによる新社会システムの提案(鳥谷真佐子)

第2章 健康

- I デジタルヘルスケア DPFというソリューション(宮田俊男)
- II 次世代医療基盤法とこれからのeヘルス(飯田匡一)
- III デジタルプラットフォームと医療広告—フランス法におけるユーザーの保護(Guillaume ROUSSET、河嶋春菜訳)
- IV デジタルプラットフォームと医療広告(磯部哲) /
- V インフォデミックに挑むプロフェッショナル—古参モンスターの試練(河嶋春菜)

第3章 教育

- I 教育データ利活用 EdTech(エドテック)のELSI(倫理的・法的・社会的課題)論点フレームワーク(加納圭ほか)
- II 教育における人工知能—見出されるべき居場所(Eric BROUILLARD / Joël BOISSIERE、堀口悟郎訳)
- III 教育プラットフォームと憲法—メカゴジラは人類の味方か?(堀口悟郎)

第4章 労働

- I 労働を規律する法体系の歴史と未来—プラットフォームエコノミーを越えて(水林翔)
- II プラットフォーム資本主義による社会対話の逆転(Isabelle DAUGAREILH、柴田洋二郎訳)
- III プラットフォーム就業者の保護と社会保障法—フランス社会保障制度の発展過程と近年の立法政策から(柴田洋二郎)

